

県外で話題となった「くまもと」を紹介している。NEWS OF 熊本。県が発表した「マイタッチ計画」中国南寧市で開催された「熊本県産業博覧会」などでさらに南日本新聞の「南風録」などで取り上げられた「くまもと」を紹介します。



廣西日報

GVANGJSIH YIZEAU
广西報刊登記證第001号

熊本県 県内全公立校にパソコン

全国に先駆け小・中も 3年間で3500台を導入

熊本県は六十一年度から三年計画で、県内の公立小・中学校、高校すべてにパーソナルコンピュータを導入する。細川護国知事が十八日の定例会見で明らかにしたもので、全国の自治体に先駆けた試み。三年間での導入台数は約三千五百台に上る。

「マイ・タッチ計画」と名付けたこのパソコン導入計画は、児童生徒がパソコンに直接触れられる環境を整え、高度情報社会に対応できる人材を育てるのが狙い。熊本県は通産省の「ニューメディア・コミュニティ」、郵政省の「テレビア」の指定を受けて「情報資源都市構想」を推進しており、この構想の一環として青少年のパソコン教育に本格的に乗り出すことになった。

計画によると、県内七百八十の公立小・中学校には三千年で三台ずつを設置。この中の二千校はモデル校とし、さらに各二千台ずつ上乗せ導入する。高校は八十九校あるが、育、ろう、養護学校などを除く五十八校に十台ずつ入れ、このうち十校はモデル校として十台ずつ上乗せ導入する。小、中学校には八、高校には十六台のパソコンを入れる予定。

パソコン教育者養成のため、三年間で計千五百人の教員を対象に研修も実施する。導入後の具体的な教育方法を詰めるため、十二月初めにコンピュータ関係者や教育関係者ら十人から成る専門委員会を発足させる。

全国では、富山県が県立高校全校にパソコンを導入済みだが、文部省によると、小、中学校にまで全校配置する計画を打ち出したのは熊本県が初めて。小、中、高校における今後のコンピュータ教育のあり方を審議している文部省の「情報化社会に対応する初等中等教育の調査研究協力者会議」（座長・東洋東大教授、十三人）は八月、義務教育段階からのコンピュータの積極導入を内容とした中間報告をまとめたばかりであり、他の自治体の追従も予想される。

熊本県には現在、三十二の公立小、中、高校に三百四十二台のパソコンが入っており、六十年度的にさらに、十五校に三百九台が入る予定である。

参加展览会開幕儀式并进行友好访问 藤本伸哉副知事山本秀久委员长抵邕

副主席等会见日本客人，预祝展览会取得成功

二日下午，藤本伸哉副知事、山本秀久委员长、副主席等会见日本客人，预祝展览会取得成功。藤本副知事、山本委员长、副主席等一行，以及由山本秀久委员长率领的熊本县代表团共四十一人，于昨天上午九时十分乘飞机抵达南宁。自治区人民政府副主席王蓉贞和有关部门负责人韦安基、季桂明、陈仁、黄永强、谢汝煊等到机场迎接。

在这之前，熊本县代表团先由一个由五十名企业界人士组成的代表团于十月十九日到达南宁，在自治区人民政府副主席王蓉贞和有关部门负责人韦安基、季桂明、陈仁、黄永强、谢汝煊等到机场迎接。

在这之前，熊本县代表团先由一个由五十名企业界人士组成的代表团于十月十九日到达南宁，在自治区人民政府副主席王蓉贞和有关部门负责人韦安基、季桂明、陈仁、黄永强、谢汝煊等到机场迎接。



熊本県産業博覧会」は、昨年十一月三日から六日まで、中国広西壮族自治区南寧市で開催されました。会期中、延べ八万人の人を集め、大盛況であったこの博覧会を、現地の広西日報紙は次のように報じています。

熊本県産本副知事一行は、昨日午前九時十分南寧に到着した。一行は、前自治区共産党委員会第一書記喬曉光氏等と展覧会の参観を行った後、王蓉貞副主席主催の歓迎宴会に出席。熊本県産本副知事の開幕を祝福されるとともに、熊本県代表団の南寧訪問が歓迎された。……

熊本県産本副知事一行は、昨日午前九時十分南寧に到着した。一行は、前自治区共産党委員会第一書記喬曉光氏等と展覧会の参観を行った後、王蓉貞副主席主催の歓迎宴会に出席。熊本県産本副知事の開幕を祝福されるとともに、熊本県代表団の南寧訪問が歓迎された。……



すでにお母さん方の力で導入されたパソコンに興じる倉岳町宮田小学校の子供たち

熊本県が初めて。小、中、高校における今後のコンピュータ教育のあり方を審議している文部省の「情報化社会に対応する初等中等教育の調査研究協力者会議」（座長・東洋東大教授、十三人）は八月、義務教育段階からのコンピュータの積極導入を内容とした中間報告をまとめたばかりであり、他の自治体の追従も予想される。

熊本県には現在、三十二の公立小、中、高校に三百四十二台のパソコンが入っており、六十年度的にさらに、十五校に三百九台が入る予定である。

熊本県が初めて。小、中、高校における今後のコンピュータ教育のあり方を審議している文部省の「情報化社会に対応する初等中等教育の調査研究協力者会議」（座長・東洋東大教授、十三人）は八月、義務教育段階からのコンピュータの積極導入を内容とした中間報告をまとめたばかりであり、他の自治体の追従も予想される。

南風録

熊本県知事の細川護照（もりひろ）さん（四七）の話聞く機会があった。大分県の一村一品運動と張りあって、日本一づくりの運動の旗を振っている。興味ある「隣人」である。北海道知事の横路孝弘さん（四四）と並ぶ若い世代の知事で、二年前に登場したニュー・ガバナード。肥後藩主の直系で参院議員だったこの人が、いま「廃藩置縣」を強調している。徳川時代の封建制にかえられ、とっているわけではない。地方の時代というなら、あの時代の強烈な地域主義を、という呼びかけである。名刺（さつ）釈迎院に通ずる中央町の三千段の石段づくりは、知事の勧めで始まった。山形県の出羽三山神社の石段を一段抜き、ついに日本一になって新聞・テレビの話題になったばかり。自己主張で町づくりに活を入れる。石段ごとき、たわいもないと言ってはおれない。偉大なる田舎の創造のために、「知的興奮の場づくり」が第一、というのが持論。この秋には、文化庁芸術祭の初の地方公演を、「文化国体」として誘致した。日本文化デザイン会議を、ライバルの大分県といっしょに開いた。肥後モッコスには、ワサモン（新しがり屋）のしたたかな一面もある。耳に残った言葉に「合人会社」がある。県庁はお金でつくる合資会社ではない。企業は人なり、県も人なり。庁内を横断する十人一組（うち女性二人）で、共通のテーマに挑む「プロジェクト・テン・システム」はその一例。阿蘇の野焼きのように、これから燃え広がるのかも。隣の庭はきれいに見えるものだが、交通事情で隣県の方が東京より遠い、という感じがたまりではない。九州戦争」が取りざたされている折から、もっと隣県を知る必要がある。地域振興も、彼を知り、己を知れば、百戦危うからず、なのだから。